

## 「農村文明創生日本塾」

### 顧問・参与・有識者理事プロフィール

塾長	
<p>奥島 孝康</p> 	<p>早稲田大学第14代総長 公益財団法人 ボーイスカウト日本連盟理事長 愛媛県北宇和郡鬼北町（旧日吉村）出身。専門は会社法の法学者。現在、白鷗大学学長。早稲田大学名誉教授。早稲田大学元総長。日本高校野球連盟最高顧問、日本ボーイスカウト東京連盟連盟長ほか、多数の学会、審議会、公益法人等での役職を有する。長野県木島平村において提唱した「農村文明塾」構想に賛同し、平成22年3月に設立された「農村文明塾」の塾長に就任し、有識者顧問会議や大学連携など、農村文明塾の運営に尽力している。</p>
顧問	
<p>大森 彌（わたる）</p> 	<p>東京大学名誉教授 自治体行政学の形成を目指し、専門家の立場から鋭いメスを入れる。東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了。法学博士。専門は行政学・地方自治論。東京大学教授、東京大学教養学部長、千葉大学教授、放送大学大学院客員教授を歴任。「厚生省 高齢者介護・自立支援システム研究会」座長を務め、後の介護保険制度の骨格を作った。内閣府・独立行政法人評価委員会委員長、厚労省社会保障審議会委員、同審議会介護給付費分科会「介護施設等のあり方に関する委員会」委員長、社会保障国民会議（平成20年1月閣議決定）委員。</p>
<p>川勝 平太</p> 	<p>静岡県知事 京都市出身。早稲田大学卒業後、オックスフォード大学博士号取得。早稲田大学政治経済学部教授、国際日本文化研究センター教授、静岡文化芸術大学学長を歴任後、平成21年7月静岡県知事に就任。 小渕内閣に設置された「21世紀日本の構想」懇談会、第1次安倍内閣に設置された教育再生会議と「美しい国づくり」企画会議にて委員を務め、国土交通省では国土審議会の委員を務めた。京都市社会教育委員会委員、東京都大学運営諮問会議新大学の教育研究に関する検討会委員にも就任。</p>
<p>寺島 実郎（じつろう）</p> 	<p>一般財団法人日本総合研究所会長、多摩大学 学長 立命館大学国際関係学部客員教授、帝塚山大学特別客員教授、立命館アジア太平洋大学国際経営学部客員教員、三井物産戦略研究所会長、日本総合研究所理事長、新潟県知事泉田裕彦後援会会長。著書『世界を知る力』がベストセラー。</p>

## 参 与

青木 豊



國學院大学教授

和歌山県生まれ。1973年國學院大學文学部考古学科卒。2000年「博物館展示に関する歴史的研究」で國學院大學博士（歴史学）。1973年國學院大學考古学資料館学芸員、2003年國學院大學文学部教授。

著書：「地域を活かす遺跡と博物館—遺跡博物館のいま—」、「日本の大学附属博物館的歴史と展望」、「國學院大学大学院博物館学コースの現状と課題」、「法政大学学芸員課程設立50周年シンポジウム報告書—大学における学芸員養成を展望する～新カリキュラムの実践と検証を踏まえて」など。

岡崎 昌之



法政大学名誉教授

国内外の件不利地域（過疎地域、離島他）の地域再生問題に取り組む。それら地域における農林業、観光、グリーンツーリズムなどの振興のあり方について研究、小規模市町村における地域自治の新しい在り方について全国町村会と共同で提言している。兼職として、全国町村会「町村の新しい自治制度に関する研究会」委員、国土審議会北陸地方開発特別委員などを務める。著書は、「都市地域経営」（共著、放送大学）、「地域づくり読本」「自治体の首長」「地域の自立と共生」（以上共著、ぎょうせい）など多数。

柏木 正博

大正大学専務理事

大正大学事務局長を経て、現在、大正大学専務理事。同時に地域創生学部学監及び、地域構想研究所副所長を兼務する。

小国（こくに） 喜弘



東京大学教授。

早稲田大学教授などを経て、現在、東京大学東京大学大学院教育学研究科教授。専攻は日本の教育実践史。学校教育に関する言説・制度・実践などを歴史的に対象化することを目的とし、日本教育史の研究に取り組む。特に1945年を画期とする戦前から戦後にかけての教育方法の特徴をナショナリズムとの関連に焦点をあてて読み解くことを課題としている。学校教育の変革期にある今、戦後の学校教育の理論的背景となってきた「戦後教育学」を批判的に検討し、新たな教育学の可能性を模索したいと考えている。

清水 慎一



大正大学地域構想研究所教授

元立教大学観光学部特任教授。日本国有鉄道入社、1987年JR東日本に移行し、取締役営業部長、取締役仙台支社長を歴任。2004年（株）ジェイティービー常務取締役。2011年6月退任。内閣府「地域活性化伝道師」、内閣官房地域活性化戦略チーム委員、総合技術会議専門委員、国交省「観光地域づくりプラットフォーム・人材育成検討会」座長、観光経営研究会会長、中山間地域フォーラム理事などとして活動中。

<p>進士 五十八 (しんじ・いそや)</p> 	<p>福井県立大学学長、元東京農業大学学長 京都に生まれ、小学校時代、自然豊かな福井を原風景として美への感性を育み、長じて、ランドスケープ・アーキテクト（造園家）として緑のまちづくり、環境学者として活躍。 日本学術会議会員（環境学委員長）、日本都市計画学会長、日本造園学会長、日本野外教育学会長、東京農業大学長、2013年福井県里山里海湖研究所長、2014年福井県立大学客員教授を歴任し、2016年福井県立大学長に就任。日本農学賞、読売農学賞、日本造園学会賞、同特別賞、同上原敬二賞、日本生活学会今和次郎賞、内閣みどりの学術賞など受賞。Golden Fortune 表彰、紫綬褒章受章。</p>
<p>中野 不二男</p> 	<p>京都大学特任教授、(一財)リモートセンシング技術センター参与 ノンフィクション作家、科学技術ジャーナリスト。京都大学宇宙総合学研究ユニット特任教授。工学博士（東京大学大学院工学研究科）。1978年に渡豪し、アボリジニの研究に従事。1982年から執筆活動を行う。著書に『レーザー・メス 神の指先』（1989年、新潮社、大宅壮一ノンフィクション賞／1992年、新潮文庫）、『日本の宇宙開発』（1999年、文春新書）など。</p>
<p>中村 浩志</p> 	<p>信州大学教授、一般財団法人中村浩志国際鳥類研究所代表理事 1969年、信州大学教育学部卒業。京都大学大学院ではカワラヒワの研究を行い、1977年、理学研究科博士過程修了。理学博士。1980年より信州大学教育学部助手、1992年同学部教授。動物生態学が専門で、1982年より千曲川でカッコウの托卵とその生態調査を行っている。その他にも、ライチョウ、カケス、ブッポウソウなど、様々な鳥の研究で世界的にも高い評価を受けている。2002年にはカッコウの研究で、鳥学の発展と鳥類保護の功績を顕彰する「山階芳麿賞」を受賞。2002年より日本鳥学会副会長。</p>
<p>原 勝則</p> 	<p>公益社団法人国民健康保険中央会理事長、元厚生労働審議官 富士町出身で佐賀西高から早大に進学。在学中に父をがんで亡くし、「がん対策をやりたい」と旧厚生省に79年入省。当時は私学卒で官僚になる学生はほとんどいない時代。少子高齢化で財政悪化に直面する医療保険の畑を長く歩き、老健局長や国民健康保険課長を歴任。課長で2年間、審議官・局長級で6年間官邸に務め、内閣総務官などとして7人の総理、9人の官房長官に仕えた。2016年1月から佐賀市の福祉政策アドバイザーに就任。</p>
<p>原 剛</p> 	<p>早稲田大学名誉教授。 東京農業大学客員教授（農業経済博士）、早稲田大学・北京大学共同環境大学院開設委員、早稲田環境学研究所顧問。1938年生まれ、早稲田大学法学部卒業、毎日新聞社会部記者・副部長、編集委員・論説委員を経て、1998年早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授。2009年特命教授就任。1993年に国連グローバル500・環境報道賞を受賞。中央環境審議会委員、総理府21地球環境懇談会委員などを歴任。</p>



## 有識者理事

小田切徳美



明治大学教授

1959年、神奈川県出身。専門は農政学・農村政策論・地域ガバナンス論。東京大学農学部卒業、東京大学博士（農学）。東京大学大学院助教授などを経て、現職。日本学術会議会員、地域の課題解決のための地域運営組織に関する有識者会議座長（内閣官房）、国土審議会委員（国土交通省）、食料・農業・農村政策審議会委員（農林水産省）、過疎問題懇談会委員（総務省）、今後の農林漁業・農山漁村のあり方に関する研究会座長（全国町村会）などを兼任。過疎や限界集落、農村問題の専門家として、現地でのフィールドワークから理論的分析まで研究・実践に取り組み、提言を続けている。

椎川 忍



一般財団法人地域活性化センター理事長

1953年生まれ。秋田県出身。四日市高校から東京大学法学部卒業。

1976年自治省入省。1993年から島根県総務部長、1996年から自治省大臣官房国際室長・財政局調整室長、2001年から総務省自治財政局地方債課長・財政課長、2005年から内閣府・総務省の大臣官房審議官、2007年から自治大学校長、2008年から地域力創造審議官、2010年から自治財政局長、2012年9月退官。（株）ぐるなび顧問、（株）日立製作所情報通信システム社シニアアドバイザーなど。

高橋 公



ふるさと回帰支援センター代表理事。

1947年福島県相馬市生まれ。いわき市小名浜育ち。1970年秋、早稲田大学を中退。1977年秋、自治労書記局に入る。1997年連合の社会政策局に出向、農業政策、環境政策、教育政策等を担当。2002年NPO法人ふるさと回帰支援センター設立。事務局長に。この間、連合社会政策局長、食を考える国民会議委員、中央環境審議会臨時委員等を経て、現在は自治労特別執行委員、地球温暖化防止活動推進センター運営委員。「ハムさん」の愛称で親しまれている。

田村 明孝



高齢者住宅経営者連絡協議会 事務局長。

株式会社タムラプランニング&オペレーティング代表取締役。1974年専修大学商学部卒。中高齢者向け住宅の開発に携わった後、1987年に株式会社タムラ企画（現タムラプランニング&オペレーティング）設立。高齢者住宅の事業計画立案及び実施・運営・入居者募集等、一連の実務に精通したコンサルタントとして活躍中。（財）高齢者住宅財団特定施設見直しに関する調査委員（2003年度）、神戸市高齢者向け住宅施設に関する情報提供委員（2003年度）。

皆川 芳嗣



（株）農林中金総合研究所理事長。

1954年生まれ。福島県出身。1977年東京大学経済学部卒。1978年農林省入省。総合食料局食糧部長、林野庁次長、農村振興局次長、関東農政局長、林野庁長官等を経て、2012年から農林水産事務次官。兵庫県庁へ出向経験あり。2016年4月から（株）農林中金総合研究所顧問を経て、2016年6月より現職。

<p>宮口 侗迪 (としみち)</p> 	<p>早稲田大学名誉教授。</p> <p>1946年富山県生まれ。東京大学地理学科、同大学院博士課程にて社会地理学を専攻。早稲田大学教授、同大学教育・総合科学学術院長を歴任し、現職。文学博士。総務省過疎問題懇談会座長、農水省美の里づくりコンクール審査委員、富山県景観審議会会長等を務め、社会地理学の立場から地方の発展のあり方について発言を続ける。主著に『地域づくり・創造への歩み』『新・地域を活かすー一地理学者の地域づくり論ー』。</p>
<p>安田 喜憲</p> 	<p>国際日本文化研究センター名誉教授。</p> <p>東北大学大学院環境科学研究科特任教授、立命館大学環太平洋文明研究センター長、ふじのくに地球環境史ミュージアム館長を務める。フンボルト大学ベルリン客員教授、麗澤大学比較文明文化研究センター客員教授。専攻は環境考古学。理学博士（東北大学、1978年）麗澤大学客員教授、フンボルト大学客員教授、京都大学大学院理学研究科教授、スウェーデン王立科学アカデミー会員、東京財団上席研究員等を歴任。2007年紫綬褒章受章。</p>
<p>芳川 修二</p> 	<p>前木島平村村長。木島平村職員若手時代からイベント開催など地域づくり活動に深く関わり、企画広報課長や教育次長などを歴任。</p> <p>2007年2月から2期8年木島平村村長を務める。この間「農を基軸とした交流型産業の振興」、「農村環境を生かした教育の推進」、農村型介護福祉、村ぐるみ防災体制の構築、等々、一貫して農村を意識した政策を推進。</p> <p>2009年10月には「農山村交流全国フォーラム」を開催、農村文明の創生を宣言、2010年3月には農村文明塾（木島平村における）を設立。2012年7月、北海道から九州まで11道府県の46村が参加した「第1回全国村長サミット」を開催、翌第2回も同村で開催。第3回の九州・相良村での開催で農村文明創生を全国に呼び掛ける。</p> <p>木島平村での農村文明塾の取り組みは、平成26年度ふるさとづくり大賞・総務大臣賞を受賞。</p>